

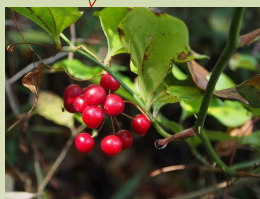
目立たない果実には訳がある

果実は秋だけのものではありませんが、秋に実る果実が多いのは確かです。店頭にも果物の種類が増えています。目立つ赤やオレンジの色は「成熟してます・食べられます」のサインです。食べさせて、移動し、糞に混じって出ます。

ところが、果実は目立つものばかりではありません。葉の色と同じ緑や、落ち葉の色と同じ茶色で、探すつもりでいないと見過ごすような果実が、少なくありません。目立つことに意味があるとすれば、目立たないことにも別の意味があるはずです。



マンリョウ



サルトリイバラ



赤は葉の緑と補色の関係にあり、葉とは違う何か、だということを宣伝する色です。あくまで宣伝で、味とは関係ない所がミソです。

イギリ

目立たない

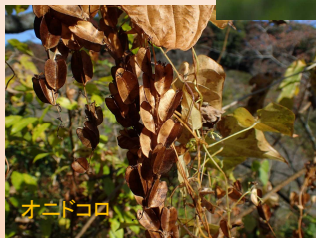
緑や茶色は、背景の葉や落ち葉に紛れて、見つけにくい色です。熟すと目立つ果実でも、未熟なうちは緑色で、動物の目から隠しています。



キジヨラン



チドリノキ



オニドコロ



イノコヅチ

目立たないように見えるけれど...

ドングリやクリは一見落ち葉の中では目立たないように見えますが、落ちたばかりの時は艶があって、案外よく見えます。ドングリは貯蔵して食べ残してもらいたいのので、貯蔵する動物にはわかるようにしているのかもしれませんが。



コナラ



シラカバ



ウラジロガシ



クリ



ケンボナシ

→ケンボナシは落ち葉に紛れる茶色ですが、匂いで動物を誘っています。食物を探すのに目ではなく、匂いを手掛かりにする動物を相手にしているのかもしれませんが。

種子は、植物の子供で、次の世代の植物になるための、最初の体を作るための栄養を貯めています。そのため動物の食物として非常に価値があるものですが、植物にとっては食べられてほしくないものです。

目立つ果実は、種子を食べさせないように保護し、種子の外側に食べさせるものをつけて、動物が食べることで種子を守ることを両立させています。食べさせることは、種子を運んでもらうための手段なので、決して動物のためではありません。

目立たない果実は、種子の分散を動物が食べることに頼らない果実です。それでも種子は食物として価値があるので、動物は食べようとします。そこで、目立たなくして動物の目から逃れているのでしょう。それでも食物として価値がある限り、探す気になった動物には食べられてしまいます。

